

2018年12月期 第1四半期 決算説明資料

2018年5月9日 ユニ・チャーム株式会社 代表取締役 社長執行役員 高原 豪久

本資料には、現在入手している将来に関する、見通し・計画に基づく予測が含まれております。 実際の業績は、競合状況・為替の変動等に関わるリスクや、不確定要因により記載の計画と 大幅に異なる可能性があります。



2018年12月期 第1四半期 決算概要

◆資料内の表記

BC: ベビーケア事業

FC: フェミニンケア事業

HC: ヘルスケア事業

C&F: クリーン&フレッシュ事業

PC: ペットケア事業

2018年12月期 第1四半期 決算総括



● 連結業績(過去最高を更新)

- ✓ 売上高1,609億円(+10.0%、147億円増収)、コア営業利益247億円(+31.6%、59億円増益)。
- ✓ コア営業利益率 12.8%⇒15.4%、アジアを中心に大幅に改善。

● 日本業績(+9.0% 52億円増収、+6.8% 8億円増益)

- ✓ HC···中度、軽度商品における付加価値商品の展開により市場を牽引。
- ✓ BC···中国への越境ECが約2.6倍成長。国内では市場成長を上回る成長を継続。
- ✓ PC···市場創造型商品等の付加価値商品を継続的に投入し好調に推移。

● 海外業績(+10.7% 95億円増収 +77.8% 51億円増益)

- ✓ アジア・・・+14.2% 91億円増収、+91.1% 51億円増益。コア営業利益率8.7% ➡14.6%へ改善。
- ✓ 中国・・・FCで主要都市を中心に昨年販売した若年層向け商品の展開が好調に推移し高成長。 BCは、前4QのECイベントなどの反動から在庫を調整するも、継続したムーニー(輸入品紙おむつ)へのマーケティング投資の効果もあり、越境ECを含めたムーニーの販売は好調に推移。 自国生産品についてはパンツ型紙おむつへのシフトを促進。
- ✓ インドネシア・・・商品力強化、販路拡大等で市場成長を上回る成長を継続し収益性を改善。
- ✓ インド・・・ 前年の火災の影響もあったが、4月に第3工場が竣工し、更なる成長基盤を強化。

● <u>株主還元</u>

- ✓ 配当金・・・年間配当金は4円増配の24円を予定。17期連続増配を計画。
- ✓ 増配を継続しながら、配当性向を段階的に引き上げ。

+10.0% 147億円増収、+31.6% 59億円営業増益いずれも過去最高を更新 業績予想に対し、売上高、利益ともに進捗は良好



■ 連結決算ハイライト

(百万円)

'17/12月期 1Q	'18/12月期 1Q	増減額	増減率	(業績予想) '18/12月期 2Q	進捗率
146,259	160,936	+14,676	+10.0%	322,000	50.0%
18,793 (12.8%)	24,731 (15.4%)	+5,938	+31.6% (+2.6%P)	42,000 (13.0%)	58.9%
17,993 (12.3%)	21,824 (13.6%)	+3,832	+21.3% (+1.3%P)	41,500 (12.9%)	52.6%
11,589 (7.9%)	14,178 (8.8%)	+2,590	+22.3% (+0.9%P)	26,000 (8.1%)	54.5%
19.64	24.21	+4.57	+23.3%	_	_
113.64	108.30	-5.34	-4.7%	110.00	_
16.57	17.05	+0.48	+2.9%	16.80	_
	1Q 146,259 18,793 (12.8%) 17,993 (12.3%) 11,589 (7.9%) 19.64	146,259 160,936 18,793 24,731 (12.8%) (15.4%) 17,993 21,824 (12.3%) (13.6%) 11,589 14,178 (7.9%) (8.8%) 19.64 24.21	1Q 1Q 增減額 146,259 160,936 +14,676 18,793 24,731 +5,938 (12.8%) (15.4%) +5,938 17,993 21,824 +3,832 (12.3%) (13.6%) +2,590 11,589 14,178 +2,590 (7.9%) (8.8%) +2,590 19.64 24.21 +4.57 113.64 108.30 -5.34	1Q 1Q 增減額 146,259 160,936 +14,676 +10.0% 18,793 24,731 +5,938 +31.6% (12.8%) (15.4%) +5,938 +21.6% 17,993 21,824 +3,832 +21.3% (12.3%) (13.6%) +3,832 +21.3% (15.4%) 14,178 +2,590 +22.3% (7.9%) (8.8%) +2,590 +22.3% (19.64 24.21 +4.57 +23.3% 113.64 108.30 -5.34 -4.7%	146,259

継続的なマーケティング投資の効果により、販売数量の増加や 商品ミックスの改善等が、原材料価格の上昇等を吸収し、 コア営業利益は59億円増加、収益性も大幅に改善

コア営業利益増減 (億円) 販売管理費率 粗利益率 1.0%P改善 1.6%P改善 247 +55 188 +23 数量 販促費 広告費 運賃 その他 材料 生産性 '17年12月期 18年12月期

関連

改善等

増加

1Q

1Q

日本では、BCの越境ECが高成長を継続、他事業も好調を継続アジアでは、タイ、中国、インドネシア等が収益性改善

■ 所在地別セグメント情報

(百万円)

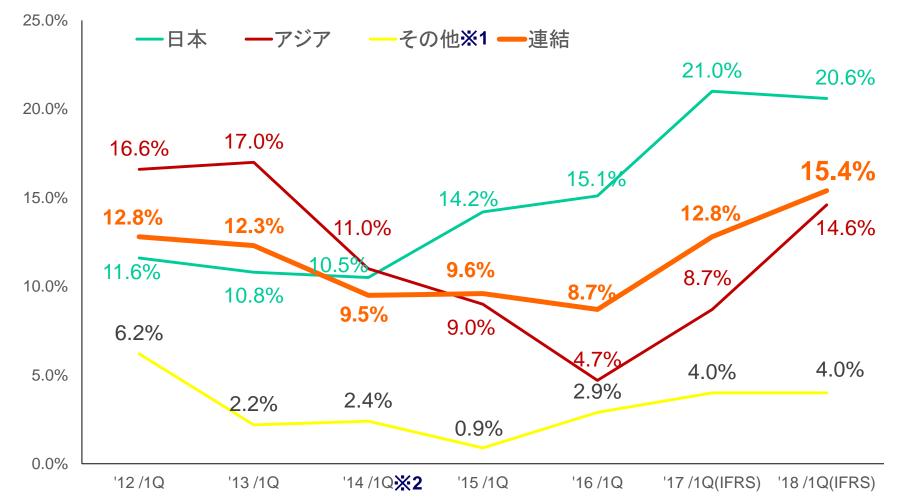
		'17/12月期 1Q	'18/12月期 1Q	増減額	増減率	(参考) <mark>※1</mark> 実質 増減率
日本	売上高 	57,704	62,872	+5,168	+9.0%	_
	コア営業利益 (利益率)	12,098 (21.0%)	12,921 (20.6%)	+823	+6.8% (-0.4%P)	_
アジア	売上高	64,300	73,400	+9,100	+14.2%	+14.0%
	コア営業利益 (利益率)	5,603 (8.7%)	10,706 (14.6%)	+5,103	+91.1% (+5.9%P)	+89.8% —
※2 その他	売上高	24,255	24,663	+408	+1.7%	+3.7%
	コア営業利益 (利益率)	978 (4.0%)	994 (4.0%)	+16	+1.6% (±0.0%P)	+6.4% —
調整額等	売上高	_	_	_	_	_
	コア営業利益	114	110	-4	_	_
	(利益率)		_		_	
連結	売上高	146,259	160,936	+14,676	+10.0%	+10.3%
	コア営業利益	18,793	24,731 (15.4%)	+5,938	+31.6%	+31.5%
	(利益率)	(12.8%)	(15.4%)		(+2.6%P)	_

^{※1:}実質増減率は為替変動を除く増減率。

^{※2:}その他の主な地域は、米国、サウジアラビア、ブラジル、オランダ。

日本では、輸出の拡大や高付加価値化を推進し高収益性を維持アジアでは、主要国で順調に収益性が改善なかでも中国FCやタイFC等が好調

■ 所在地別 営業利益率



※1:その他の主な地域は、米国、サウジアラビア、ブラジル、オランダ。

※2:決算期変更により変則的な決算期間。

国内PCでは、主にトイレタリー商品等が好調に推移 北米PCでは、気候の影響で主力品が伸び悩んだが 商品ミックスの見直しにより収益性が改善



■ 事業別セグメント情報

(百万円)

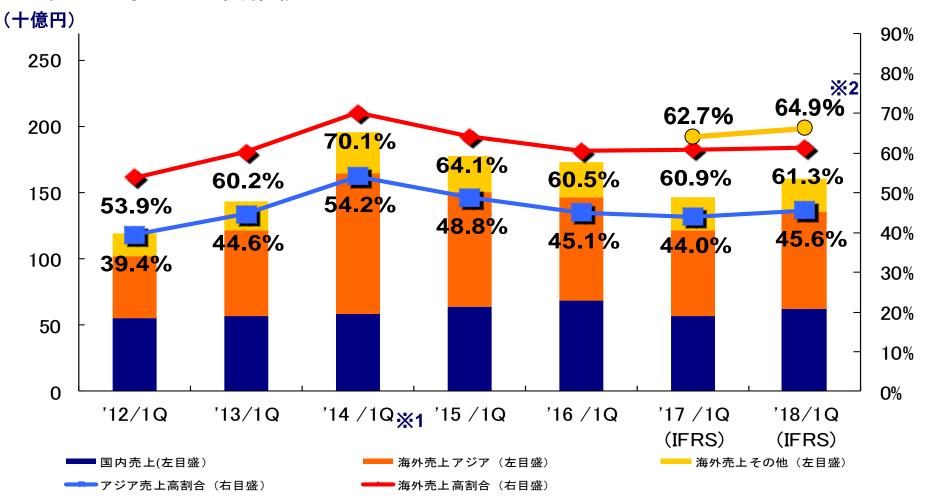
		'17/12月期 1Q	'18/12月期 1Q	増減額	増減率
パーソナルケア	売上高 コア営業利益 (利益率)	126,732 17,148 (13.5%)	141,223 22,856 (16.2%)	+14,491 +5,708	+11.4% +33.3% (+2.7%P)
ペットケア	売上高 コア営業利益 (利益率)	17,988 1,843 (10.2%)	18,039 1,906 (10.6%)	+51 +63	+0.3% +3.4% (+0.4%P)
※1 その他	売上高 コア営業利益 (利益率)	1,546 -198 —	1,680 -32 —	+134 +166	+8.7% — —
調整額等	売上高 コア営業利益 (利益率)	-8 0 —	-6 0 —	+5 — —	Ξ
連結	売上高 コア営業利益 (利益率)	146,259 18,793 (12.8%)	160,936 24,731 (15.4%)	+14,676 +5,938	10.0% 31.6% (+2.6%P)

※1:その他は産業用資材関連商品等、育児動画配信サービス。

海外売上高構成比は61.3%(為替影響を除くと61.4%)



■ 国内•海外売上高推移



※1:決算期変更により変則的な決算期間。

※2:日本からの越境EC等の輸出を海外売上高とした場合

為替変動の影響額は 売上高 約4億円減、コア営業利益 約0.2億円増



■ 通貨別変動推移

	1		
通貨	'17/12期1Qレート	'18/12期1Qレート	増減率
中国(CNY)	16.57	17.05	+2.9%
インドネシア(IDR)	0.0085	0.0080	-5.9%
タイ(THB)	3.24	3.44	+6.2%
サウジアラビア(SAR)	30.35	28.92	-4.7%
インド(INR)	1.71	1.70	-0.6%
ベトナム(VND)	0.0050	0.0048	-4.0%
米国(USD)	113.64	108.30	-4.7%
台湾(TWD)	3.66	3.71	+1.4%
オランダ(EUR)	121.08	133.22	+10.0%
韓国(KRW)	0.0988	0.1011	+2.3%
オーストラリア(AUD)	86.16	85.27	-1.0%
マレーシア(MYR)	25.57	27.63	+8.1%
エジプト(EGP)	6.41	6.13	-4.4%
ブラジル(BRL)	36.16	33.37	-7.7%
ロシア(RUB)	1.94	1.91	-1.5%

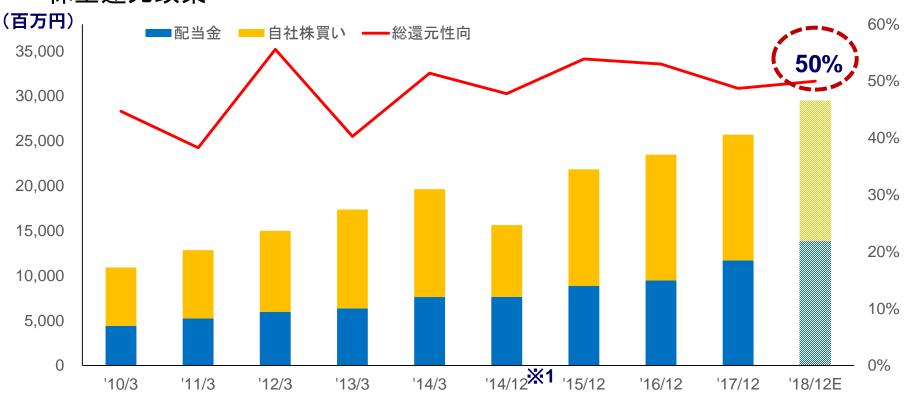


株主還元政策

2018年度も総還元性向50%を予定



■ 株主還元政策



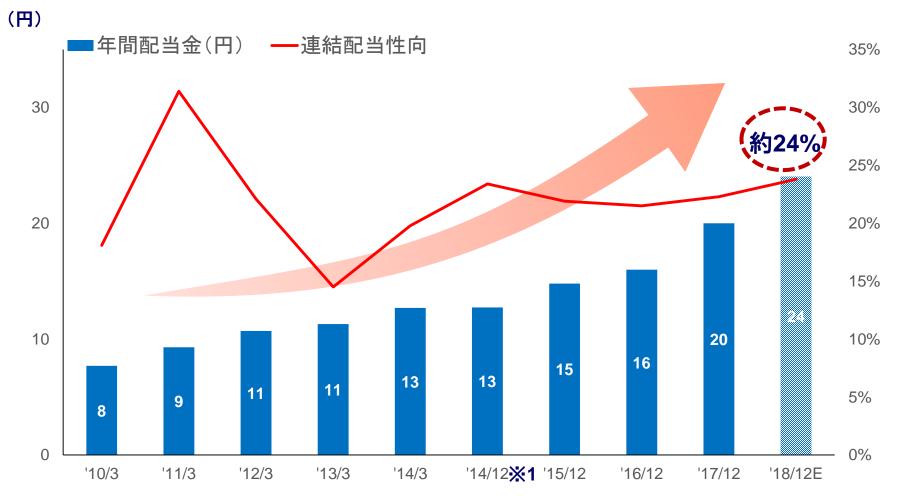
※1 '14/12は、会計年度9ヶ月の変則決算

継続的な成長を実現するための事業投資を優先しつつ、中長期的な連結業績の成長に基づき、安定的かつ継続的な配当を実施し、自己株式の取得に関しても必要に応じて機動的に行うことで、株主配当と自己株式取得と合わせて終還元性向50%を目標(配当性向は段階的に引き上げる)に利益還元を図っております。

安定的かつ継続的な増配を実施し、17期連続増配を計画配当性向は段階的に引き上げる



■ 1株当たり配当金の推移



※1:会計年度9ヶ月の変則決算。

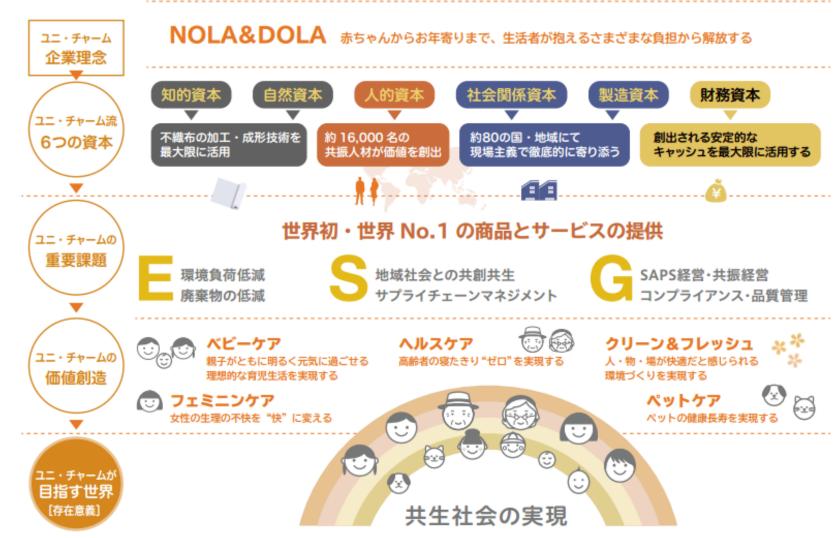


企業価値向上に向けて

UC流6つの資本をもって様々な社会的課題を解決しながら「稼ぐ力」を高め、『共生社会の実現』を推進



ユニ・チャーム価値創造モデル









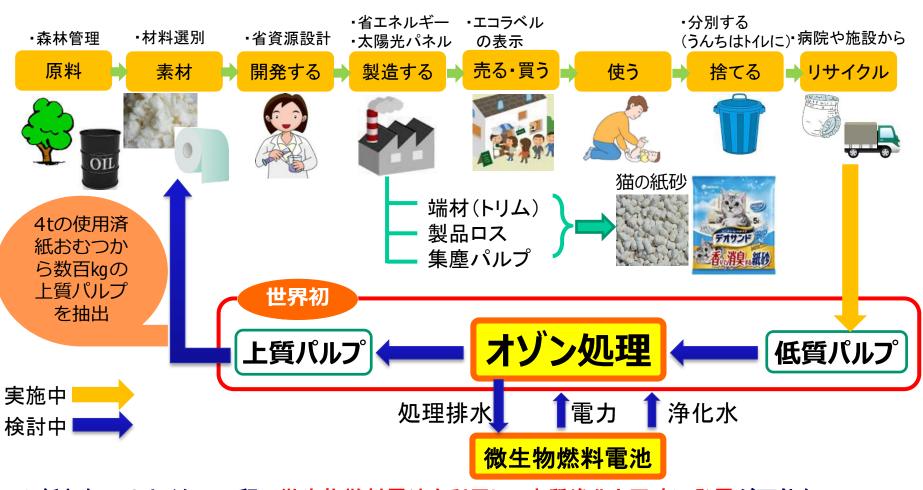


地域と協働してリサイクルモデルを推進 ライフサイクル全体で環境にやさしい商品 作りを目指す





ユニ・チャームの目指すリサイクルシステム



√ 紙おむつリサイクル工程で<u>微生物燃料電池を利用して水質浄化と同時に発電</u>が可能な 処理方法に関する<u>特許を取得</u>





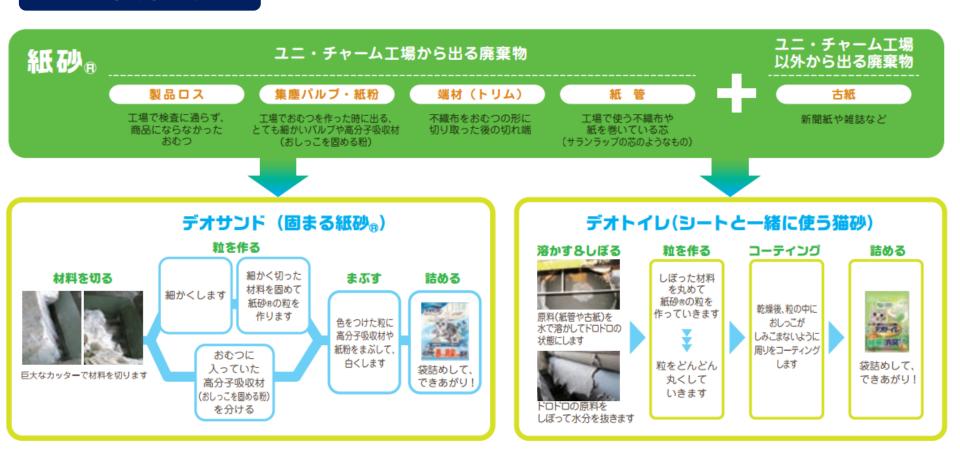




日本および海外工場における廃棄物削減の取り組み



廃棄の削減



✓ タイ法人では発生した廃棄物全体の90%以上をリサイクル。国内のリサイクル活動と併せて、 埋立廃棄物ゼロを実現。

Environment







持続可能な社会の構築に向けた環境負荷低減と環境保全の推進



商品を通じた国内でのCO。削減の取り組み





✓ 「エコチャーミング商品」の一例



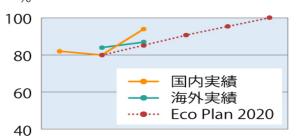




✓ 環境性能が向上した「環境配慮型商品」の概念をさらに発展させて持続可能な社会への適合を推進する上位商品を「エコチャーミング商品」として定義。基準をクリアした商品は146品目。(2017年12月現在)

生物多様性に配慮したサプライチェーンマネジメントの推進

。◆FSC等の持続可能な第三者保証材比率



2015 2016 2017 2018 2019 2020 年 🗸

FSC www.fsc.org

責任ある森林管理 のマーク

FSC® N002492

使用を森林ガイドラインを通じてサプライヤーへ要請。2016年からは対象範囲を海外ローカルサプライヤーへ広げる。

✓ HCVFや、HCSFからの原材料不

2020年までに吸収物品に使用される紙・パルプについて、再生紙、または「持続可能森林認証材」への切り替えを目指す。

HCVF: High Conservation Value Forests
HCSF: High Carbon Stock Forests

◆2017年3月RSPO加盟



持続可能な調達に向けた情報収集とトレーサビリティ確立に向け、RSPOへ加盟

RSPO: Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)



ユニ・チャームらしさを活かした社会貢献 活動を実施し、UCファンの拡大へ繋げる



◆BC 親子の理想的な育児生活を実現





◆HC 高齢者の寝たきり"ゼロ"を実現







◆FC 女性の生理の不快を"快"に変える



◆PC ペットの健康長寿を実現













『ユニ・チャームグループ人権方針』と 『調達基本方針』を制定



ユニ・チャームグループ人権方針

社員を含むすべてのステークホルダーの人権尊重に 向けた取り組みを推進

ユニ・チャームグループ人権方針

ユニ・チャールグループは、企業費を「NOLABOLA」に「参与かんからお呼寄りまで、 生活者がきさぎなら利用いら解放されるよう。心と体をやさしくサポートで高級を侵略、 し、一人ひとりの夢を叶えたい」という思いを込めており、全ての人に与えられた基本的権 利である人振が構造される社会の実現を支援していきます。またその前接として、当社は人 様電像の責任をデモガリカとしております。

. 位置づけ

ユニ・チャールグループは、「国際人は家会」(世界人権宣言と国際人権規則)、「労働におけ る基本的原則はと呼和に関する国際労働機関(III.0) 宣言、国連グロール・コンパク トの 10 原則、および国連の「セジネと人権に関する指導原則」に基づき、ユニ・チャー ムグループ人権力計(以下、よ力的)を定め、社員を含むすべてのステージホルグーの人権 撃撃に向けたと関連をを獲しているます。木力的は、全原金・大部門は、全原金・大部門に Buncharm Way)と特定所により、当該計略指的イ人際に係る専項についてユニ・チャームグループ ジジカニンドに関連しているかる明確にであるのです。

2. 適用範囲

本方針は、ユニ・チャームグループで働くすべての役員と社員に対し適用されます。また、 ビジネスパートナーおよびサプライヤーに対しても、本方針を支持し、遵守して頂くことを 期待して働きかけ、協働して人権事重への取り組みを推進していきます。

3. 人権尊重の責任遂行

ユニ・チャームゲループは、自らの事業活動において影響を受ける人びとの人場を検索し ないこと、また自らの事業活動において人機への負の影響が生じた場合は是にに向けて適 切に掲向することにより、人様事業の責任を深たします。なお、ユニ・チャームゲループが 直接人様の負の影響を助長していない場合でも、ピジネスパートナーペサプライヤーに がいて人様への負の影響が引き起こされている場合では、ピジネスパートナーペサプライヤーに

適用法令の遵守

ユニ・チャームグループは、事業活動を行うそれぞれの国または地域における法と規則を遵 守します。但し、各国・地域の法令等と国際的な人権の原則に矛盾がある場合には、国際的 な人権の原則を専重する方法を追求していきます。

人権デュー・ディリジェンス

ユニ・チャームグループは、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づく手順に従って人権デュー・ディリジェンスの仕組みを構築し、人権への負の影響を助止または軽減することに努めます。

40 at

ユニ・チャームグループは、直接的または間接的に、人権に対する負の影響を引き起こすよ うなことがあった場合、対話と適切な手続きを通じてその枚済に取り組みます。

教育

ユニ・チャームグループは、本方針が社内外に浸透し効果的に実行されるよう適切な教育を 行います。

対話・協議

ユニ・チャームグループは、本方針の一連の取り組みにおいて、ユニ・チャームグループの 事業の影響を受ける人びととの有意義な協議を、誠意をもって行います。

報告

ユニ・チャームグループは、人権に関する取り組みについてウェブサイト等で報告します。

制定年月日 2017年 10月 25 日 ユニ・チャーム株式会社 代表取締役 社長執行役員

■ユニ・チャームグループ人権方針 http://www.unicharm.co.jp/csreco/employee/philosophy/pdf/human_rights_p olicy.pdf

調達基本方針

「ユニ・チャームグループ サスティナブル調達ガイドライン」を新設し、調達における人権、労働、環境、安全面の社会課題に配慮

調達基本方針 ユニ・チャームグループは、企業の社会的責任を果たし、 公正で公平な企業活動をします。 (1) 購賃活動において、関連する法令や社会規範を遵守 (2) 購責活動において、国・飛模・実績の有無を飾わず 公正で公平な競争機会を提供します。 (3) 隣員活動において、知り得た情報の適切な管理を求め (1) 隣្国活動において、人権尊重を重視する企業と取り組 (2) 購買活動において、非人道的な労働に対し十分な配慮 を実践する企業と取り組みます。 (3) 購買活動において、従業員に適正な雇用を推進する 企業との取り組みを尊重します。 3. 環境への責任 (1) 捜責活動において、環境保全の重要性を理解し、推進 する企業を評価します。 (2) 隣責活動において、循環型社会を目指し、環境への 影響に配慮した原料を重視します。 4. 安全で安心な製品・資材の間達 …………… (1) 購買活動において、安全性の確認が取れた製品・資材 を選択します。 (2) 購責活動において、経済的で質の高い資材・製品を 選択します。 (3) 購買活動において、要求を満たす製造・供給能力を 重線します。 5. 相互信頼関係の発展 -------(1) 社会常識の顧囲から透脱しない、お取引先との関係を 構築し、信頼関係を構築します。 (2) お取引先と必要な情報を交換しまい、相互の業績向上

■調達基本方針 http://www.unicharm.co.jp/csr-

eco/partner/procurement/index.html

Governance



社員が心身ともに健康で生産性の高い 活動を目指す



「健康経営優良法人2018 ~ホワイト500~」に認定※1



健康経営優良法人 Health and productivity ホワイト500 ※1:優良な健康経営を実践している法人 を、経済産業省と日本健康会議が顕彰す る制度

働き方改革 の推進 2015年~

アニバーサリー休暇

2017年~

在宅勤務・勤務間インターバル・ 資格・評価・報酬制度の改定 2018年~

゚ 副業制度・ 休日電話・メールの禁止













健康維持・ 増進に向け た取り組み 2009年~2017年(9年連続)

健康診断受診率100%

2016年~

事業場内全面禁煙



2007年~ 乳がん•子宮頸部がん 検診会社負担





2015年~ ハイリスク者を対象とした メタボ研修



※:全項目、日本勤務者対象

全カテゴリーで、国内市場を活性化



■ 2018年度春の新商品(日本)









